



5年社会科の授業実践例

2022年1月

授業の見所

- ①送信機能で毎時間の学習内容を蓄積しておき、前時の振り返りや日本の貿易を説明する根拠資料としてスライド作成に活用していました。
- ②モニタリング機能を活かし、つまづいている児童へ新たな資料やヒントカードを送付することで、個に応じた支援に役立てていました。

つかむ	追究する	まとめる
✓	✓	

単元名：工業生産を支える輸送と貿易

ねらい：輸出入に関する複数の資料を使ってスライドを作成し、根拠をもって日本の貿易について説明し合うことで、その特色について多角的に捉えさせる。

【つかむ】学習ログを活用し、前時の学習内容を振り返ろう

導入では、前時までの学習内容をタブレット端末で振り返る場面から始まりました。

- 学習支援ソフトに蓄積された学習ログを活用し、これまでの学習場面を全体で振り返らせながら、児童の積極的な発言を引き出していました。



学習内容を蓄積し、前時までの振り返りとして活用することで、本時のめあて「日本の貿易の特色はどのようになっているのか」をスムーズに設定することができていました。

【追究する】作成したカードで日本の貿易の特色を説明し合おう

ヒントカード
「日本の主な輸入品と輸出品は何？」



そうか。日本は燃料や原材料を多く輸入しているんだ。

- 送信機能でカード（写真や統計資料等）を配布し、児童一人一人が「日本は～している」という定型文を使い、根拠を明確にして「日本の貿易の特色」を説明するスライドを作成できるよう工夫していました。
- 授業者が児童の様子をリアルタイムに把握し、活動に行き詰まっている児童には個別に新たな資料やヒントカードを送信し、自力解決できるよう支援していました。

作成したスライドをグループ内で共有・説明し、疑問や気付いたことをホワイトボード機能で集約し全体発表していました。授業者は児童たちの考えを意味づけながら、補足説明を行っていました。

- 多様な考えに気付かせるため、全体で発表されなかった疑問や分かったことを、モニタリング機能でチェックしておき、意図的指名に結び付け発表させていました。

モニタリング機能を効果的に活用し、意図的指名やヒントカード送信につなげることで、全ての児童が「日本の貿易の特色」について多角的に捉え、新しい気づきを表現していました。

日本は海外の工場で生産もしているよ。



日本の技術を教えているんだね。